

多職種間連携教育科目「連携基礎ゼミ」アンケート結果の報告

山口智¹⁾、村田憲章¹⁾、松井由美子¹⁾、泉田俊幸¹⁾、
 栗原桂¹⁾、真柄彰¹⁾

1) 新潟医療福祉大学 新潟連携教育研究センター運営委員会

【背景・目的】 多職種間連携教育の発展は、数多く存在する医療専門職が一丸となって臨床現場でチーム医療を展開するために必要不可欠である。新潟医療福祉大学では、「チームアプローチ入門」、「連携基礎ゼミ」、「保健医療福祉連携学」、「連携総合ゼミ」が開講されている。

「連携基礎ゼミ」は新潟医療福祉大学の全学科の2年次生の必修科目として履修を課すものである。本ゼミの目的は、「将来、保健医療福祉の専門職種において連携・協同を実践できるようになるため、2年前期までの履修内容を踏まえて各学科の専門職としての特性や志向性をお互いに理解すること」および「お互いに一つの課題を追求し発表することで、協力・他者を理解する能力をつける」とされている。つまり、互いの専門職の差異や特性の相互理解という面に焦点があてられた科目となっている。ゼミ活動の流れとしては、まず初めに学科別全体オリエンテーションを行い、「保健医療福祉領域における専門職種に対する理解」の時間で自身の目指す専門職以外の職種について調べ、ゼミ内発表およびプレゼンテーションを行う。その後研究テーマを決定し、研究テーマに沿ったゼミ活動を行う。本研究テーマは、保健・医療・福祉・スポーツ領域に関連した内容に設定することを求めている。最終的に学科内発表会にて研究成果を発表する。

「連携基礎ゼミ」は比較的早期からチーム医療に必要な専門職の相互理解を促す構成となっている。本科目に対する履修後の学生の意識を客観的数値として捉えるべく、アンケート結果を分析したので報告する。

【方法】 対象は2018年に「連携基礎ゼミ」を履修した2年次生1024名とした。2018年11月28日～2018年12月12日の期間に、「2018年度 連携基礎ゼミ 授業に関するアンケート」を実施した。質問項目は表中の11項目(所属学科および担当教員の学科選択項目は割愛)とした。回答項目は、強くそう思う(強く賛成する)・そう思う(賛成する)・どちらでもない・そう思わない(反対する)・全くそう思わない(強く反対する)の5段階回答とした。強くそう思う・そう思う、を「賛成回答」とし、そう思わない・強くそう思わない、を「反対回答」とまとめた。

【結果】 回答が得られたのは881人で、回答率は86.0%であった。各設問への回答率は、次の通りであった。() 内の数値はそれぞれ、「強くそう思う・そう思う」、「そう思わない・全くそう思わない」の内訳を示す。

表. 2018年度 連携基礎ゼミ 授業に関するアンケート質問項目

①保健・医療・福祉・スポーツに関連する様々な職種の名称と役割をあげることができた。
②自分が所属する学科の専門性や目標とする職種について他学科の学生に説明できた。
③将来、様々な職種の人たちと一緒に働くことの重要性が理解できた。
④他学科の学生と有意義なコミュニケーションがとれた。
⑤他学科の学生とゼミのテーマについて一緒に取り組むことができた。
⑥他学科の学生の意見を聞き、取り入れることができた。
⑦自分が所属する学科の専門性だけでは思いつかない考え方を生み出すことができた。
⑧この連携基礎ゼミでは自分の発言を受けとめてもらえた。
⑨担当教員は学生が発言しやすいよう適切に気を配った。
⑩この連携基礎ゼミでの学習は、将来ほかの職種の人たちと一緒に働くために役立つと感じた。
⑪この連携基礎ゼミは総合的に満足であった。

①賛成回答 87% (24%、53%)、反対回答 5% (3%、2%)
 ②賛成回答 77% (22%、54%)、反対回答 5% (4%、1%)
 ③賛成回答 86% (35%、51%)、反対回答 3% (2%、1%)
 ④賛成回答 90% (43%、47%)、反対回答 4% (2%、2%)
 ⑤賛成回答 92% (45%、47%)、反対回答 2% (1%、1%)
 ⑥賛成回答 93% (43%、50%)、反対回答 2% (1%、1%)
 ⑦賛成回答 81% (34%、48%)、反対回答 3% (2%、1%)
 ⑧賛成回答 92% (40%、52%)、反対回答 2% (1%、1%)
 ⑨賛成回答 88% (48%、40%)、反対回答 4% (2%、2%)
 ⑩賛成回答 85% (39%、46%)、反対回答 5% (2%、3%)
 ⑪賛成回答 84% (42%、44%)、反対回答 4% (2%、2%)
 各設問の回答割合の平均は、賛成回答：86.8%、反対回答 3.5%であった。

【考察】 アンケートの設問①～⑪のうち、全ての項目において賛成回答が75%以上かつ、反対回答が10%未満であった。最も賛成回答が低かった設問は②で、「強くそう思う」を選択したのは22%の学生に留まった。連携医療においては専門性の相互理解が重要であるが、自身の専門職の役割を十分に把握することも必要不可欠である。2年次生は長期にわたる実習を履修する機会を上級学年に控えており、学生自身に自職種に対する具体的なビジョンを描く機会が乏しいことが、賛成回答の割合が低い要因と推察される。逆に賛成回答が高い割合であった設問は⑤と⑧であった。この回答結果については、ゼミ内のディスカッションが効果的であったか否かを示すものであると考えられる。本科目の、「協力・理解する能力をつける」という目的達成に繋がっているものと思われる。

【結論】 2018年度の1か年分の連携基礎ゼミに対するアンケート結果をまとめた結果、概ね高い満足度が得られている科目であることがわかった。今後は多年度にわたって、あるいは学科別のアンケート結果を集計し、満足度を評価していく必要がある。